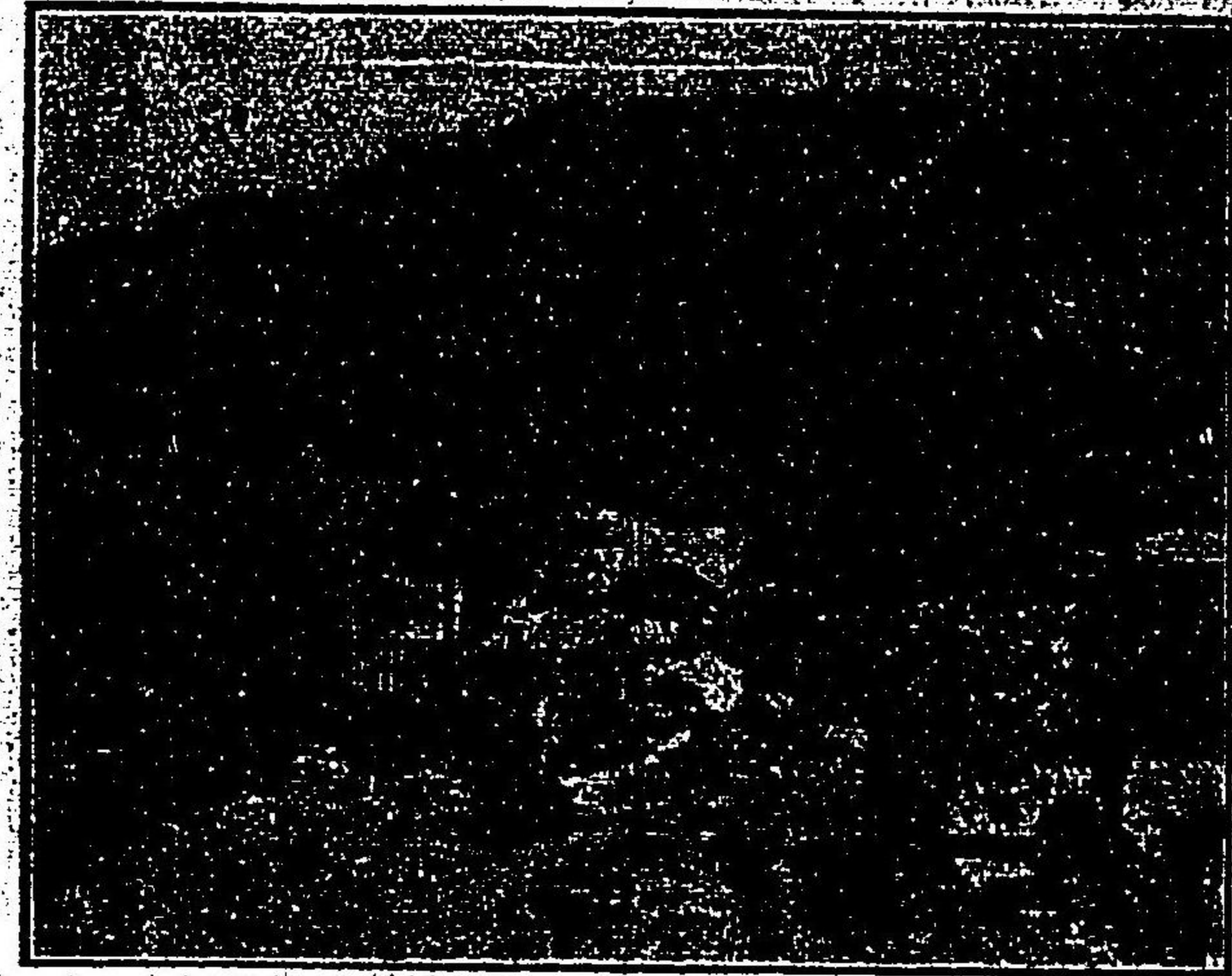




赤城山案丹

269  
446

特51  
80



泉 嶺 木 梨 ろ た 湯 關 花 櫻

◎赤城山一位の静養地にして山梨水明名あり

◎の効亦偉烈、浴療地として關東に名高し

上毛赤城山梨木嶺泉

湯元 梨木館

館主 深澤直十郎

◎客過誠實、物價低廉、足尾鐵道に一里

◎詳細は本書の本文其他に就きて瞭然とすべし

春蠶種 青熟 亦昔  
風穴種 大白龍 國富

私立養蠶校授所主任  
蠶種製造業者 岩田岩次郎  
勢多郡桂野村上沖之郷

春蠶種 亦昔 青熟

勢多郡上沖村大字石井  
蠶種製造業者 關口喜十

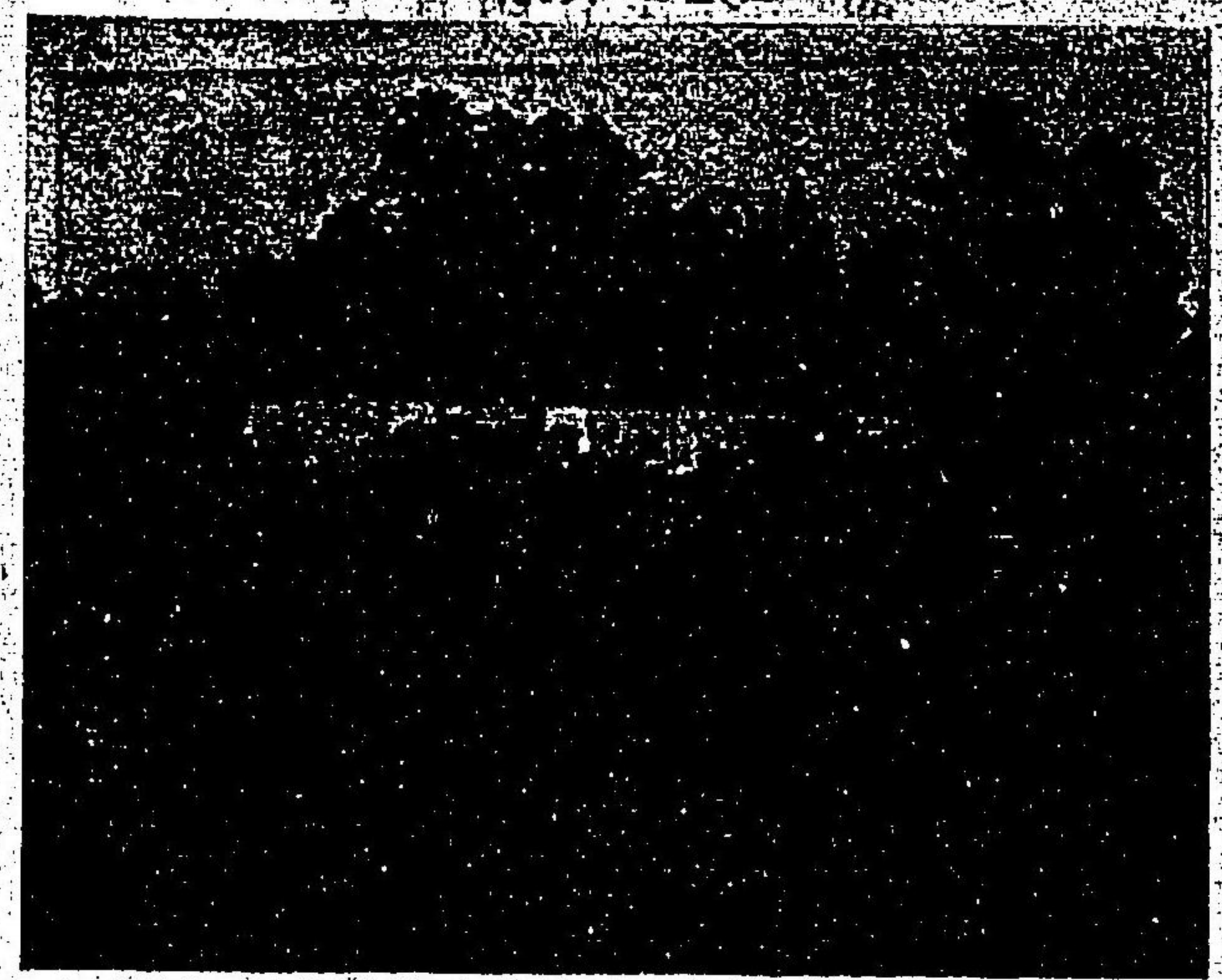
赤城風穴は天賦の地利に多年の實驗と  
學理とを應用し相當の設備あるものに  
して蠶種の生理上最も適當なるは勿論  
其の貯藏蠶種の發生良好にして好果を  
擧げつゝあるは縣當局を始め一般育蠶  
者より多大の高評を得たる所なり 樺  
の湯は疝氣寸白に殊効ありて浴客多く  
赤城風穴と共に廣々の聞へあり

蠶種貯藏所(樺の湯々元)

樺澤角藏

上毛赤城山地蔵ヶ岳

居宅の風景



洋馬線勢多郡南橋村大字田口村

蠶種製造者 高橋三郎

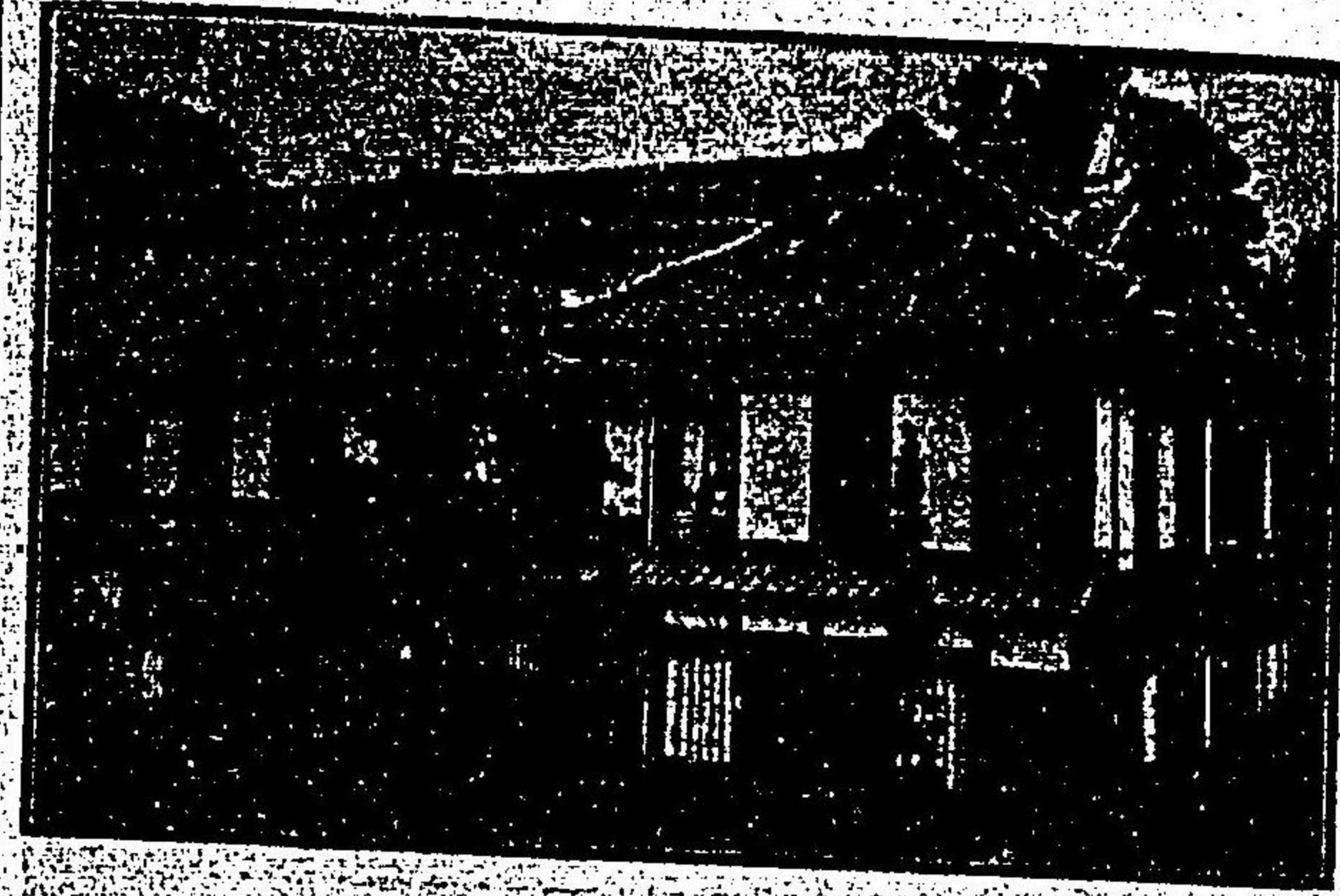
御料理 上州大間々町  
仕出し 松林亭 松屋

赤城山沼尻蠶種貯藏所

詳細は當案内書の記事御熟覽被  
下候上多少不拘御申込被下度候

上毛赤城山大洞沼尻  
御料理 青木屋  
御旅館

部一の室育飼置養



昔亦性化一

村口田字大村橋南郡多野縣馬群

平佐原鹽者造製種蠶

新らしき時代は新らしき人に因つて始めて美しき光を放つ。余は縣下に於ける最も小さき最も若き最も新らしき製種家のひとりである

◎春蠶種の部 又昔亦昔

◎秋蠶風穴種の部 千代鶴

飼育及製造場所

群馬縣多野郡富士見村大字原之郷

小見磯太郎

飼育場所(分場)

群馬縣多野郡富士見村大字米野

石關鍋十郎



自序

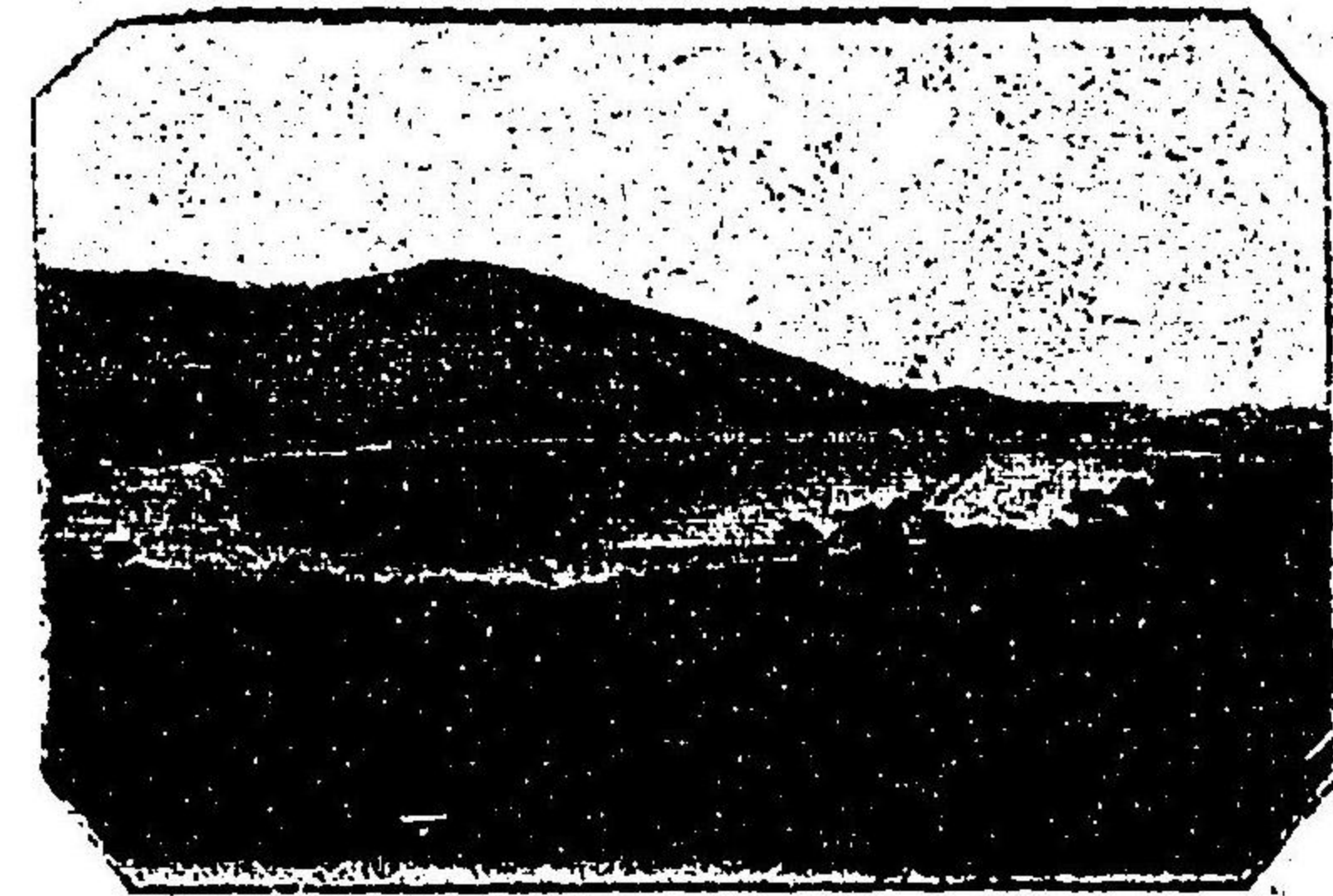
本年、養蠶の樂漸く開けて各所に案内書類の上梓せらるゝもの頗る盛なり、然れども唯も我が赤城山に於て特り之れ無きを知れるの余は遺憾甚だしき。昨夏此處に遊びて密に其の勝を叙せむとせしも改さず遂に今日に及べり、偶々鹽原社司新に意あるを以て敢て相圖り簡易な言さし現映の名所風景を約述して上梓するに至る。願して赤城山案内を言ふも果して其の名の如くなるやは知らずと雖も若しこれに依りて登山者の便宜となり探勝の伴侶となるあらば讀者の滿足を期す所なり

明治四十四年初夏

編者 謹す

明治  
45. 7. 25  
内交





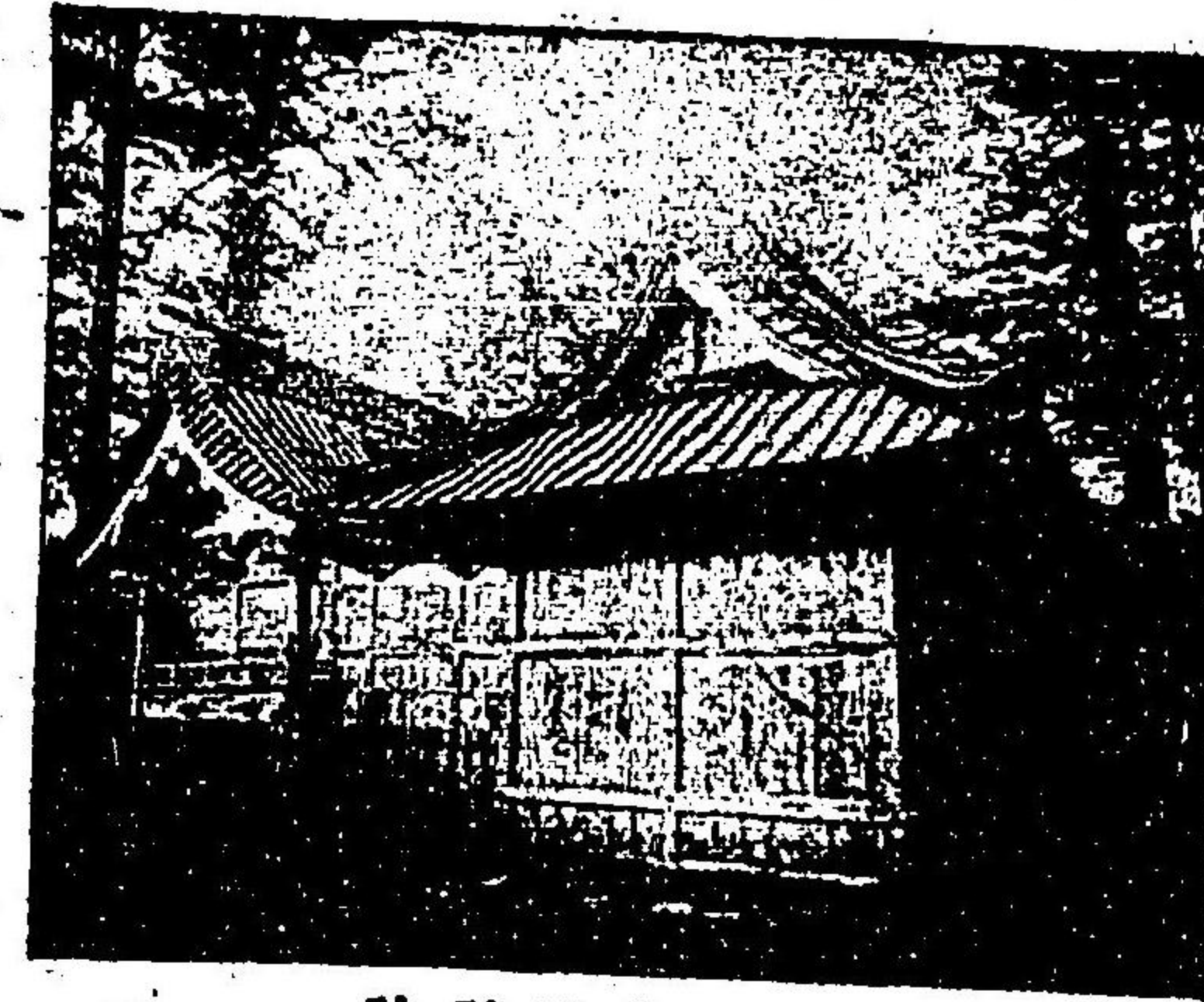
小沼の全景



前橋より遠望の赤城



大洞の赤城館



大洞赤城神社

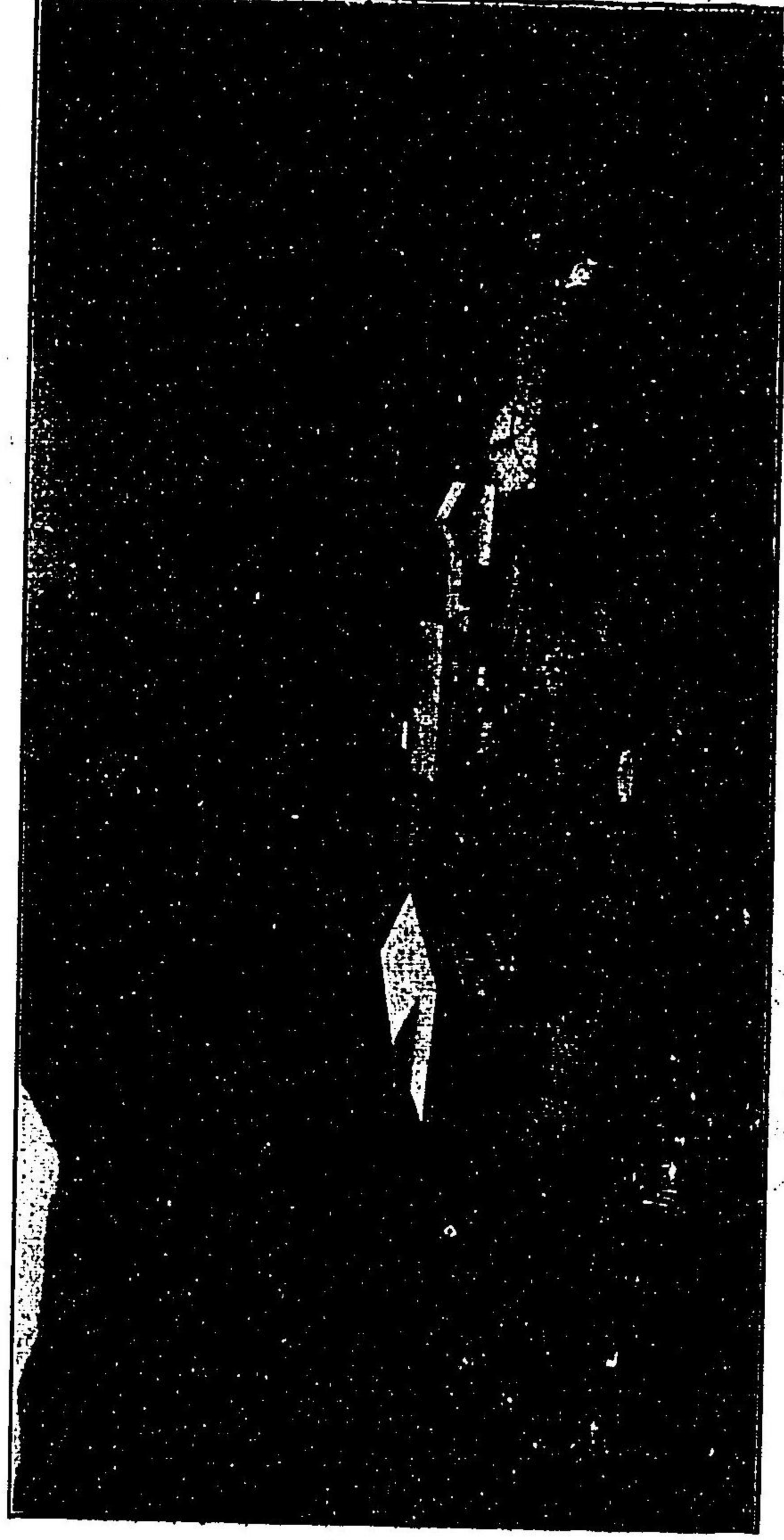


大洞赤城神社の頭

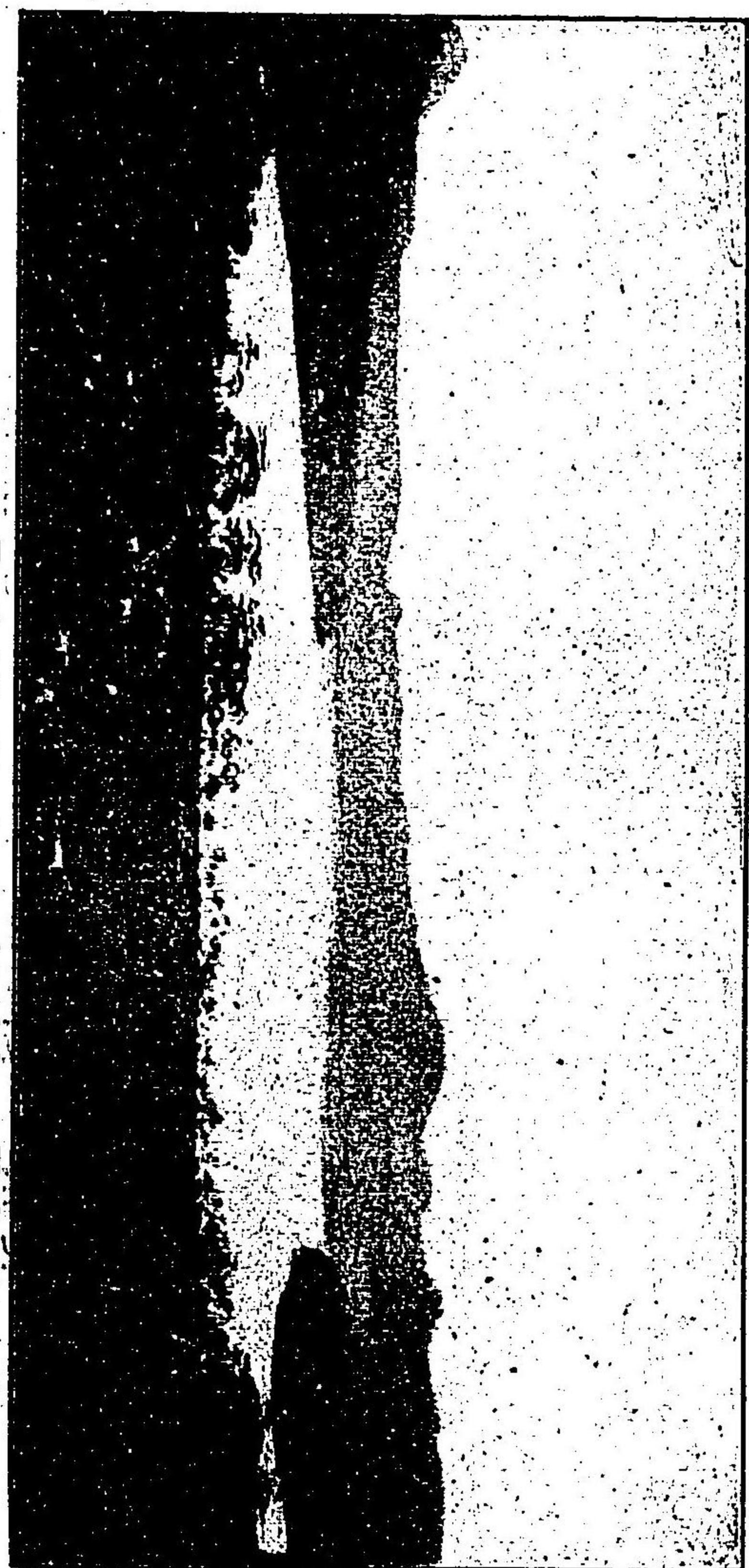
赤城山大洞招尻尾木屋築館



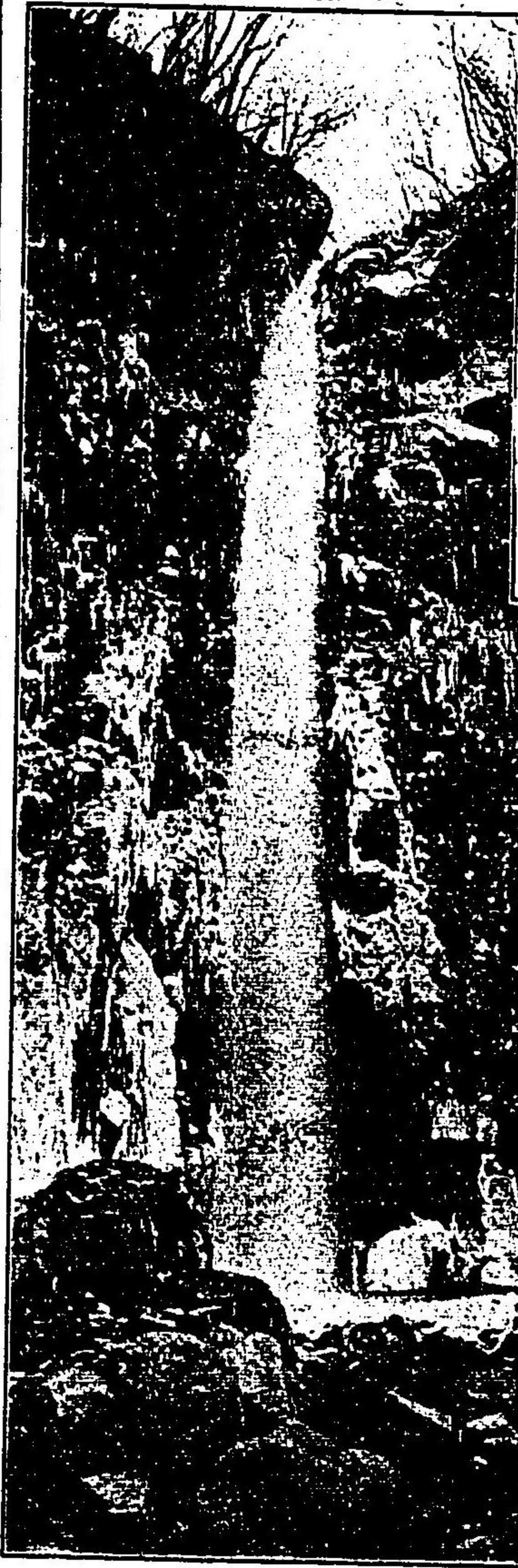
赤城山梨木泉の真景



赤城山大沼の全景



不動の滝

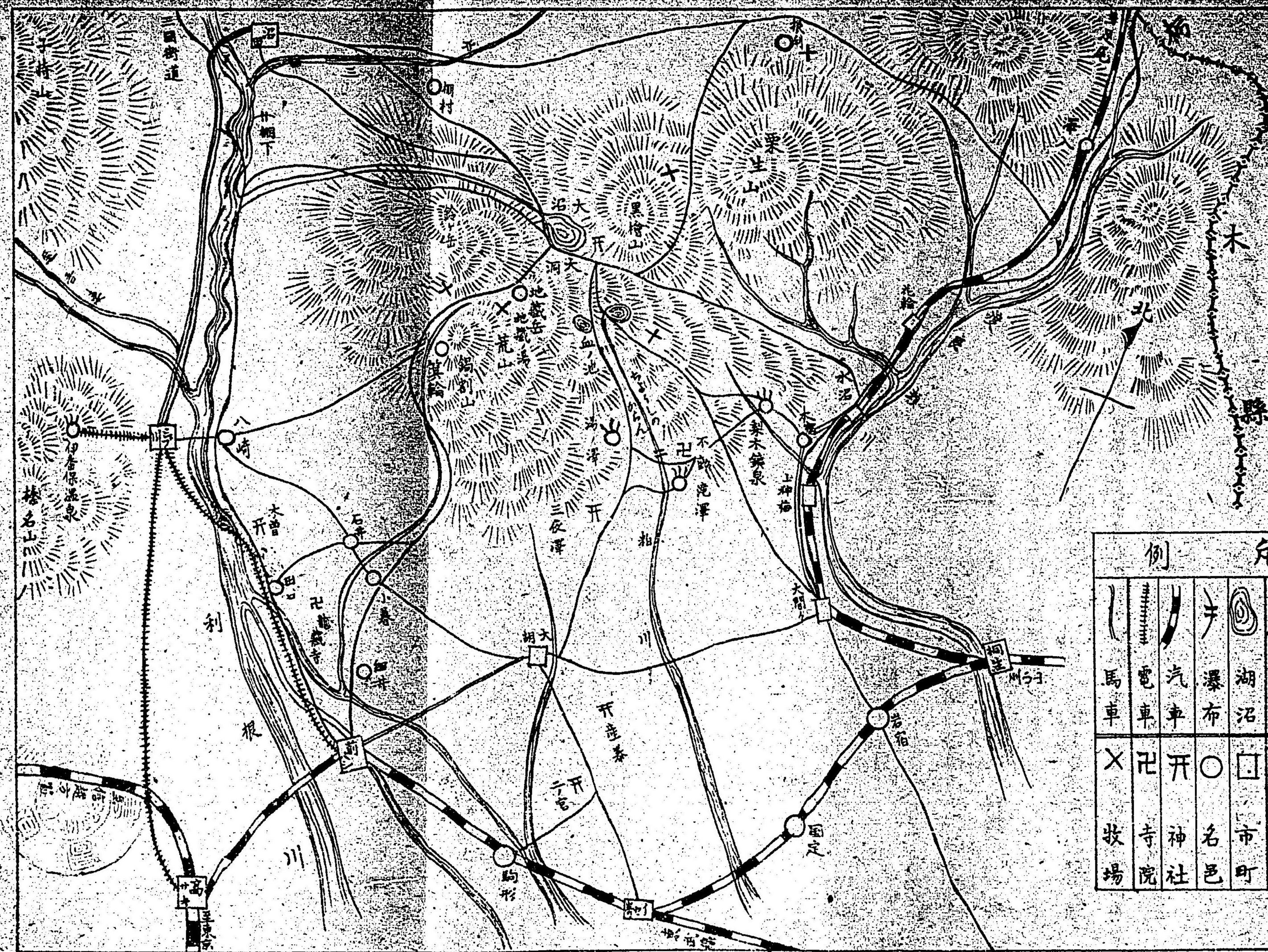


瀧澤寛不動

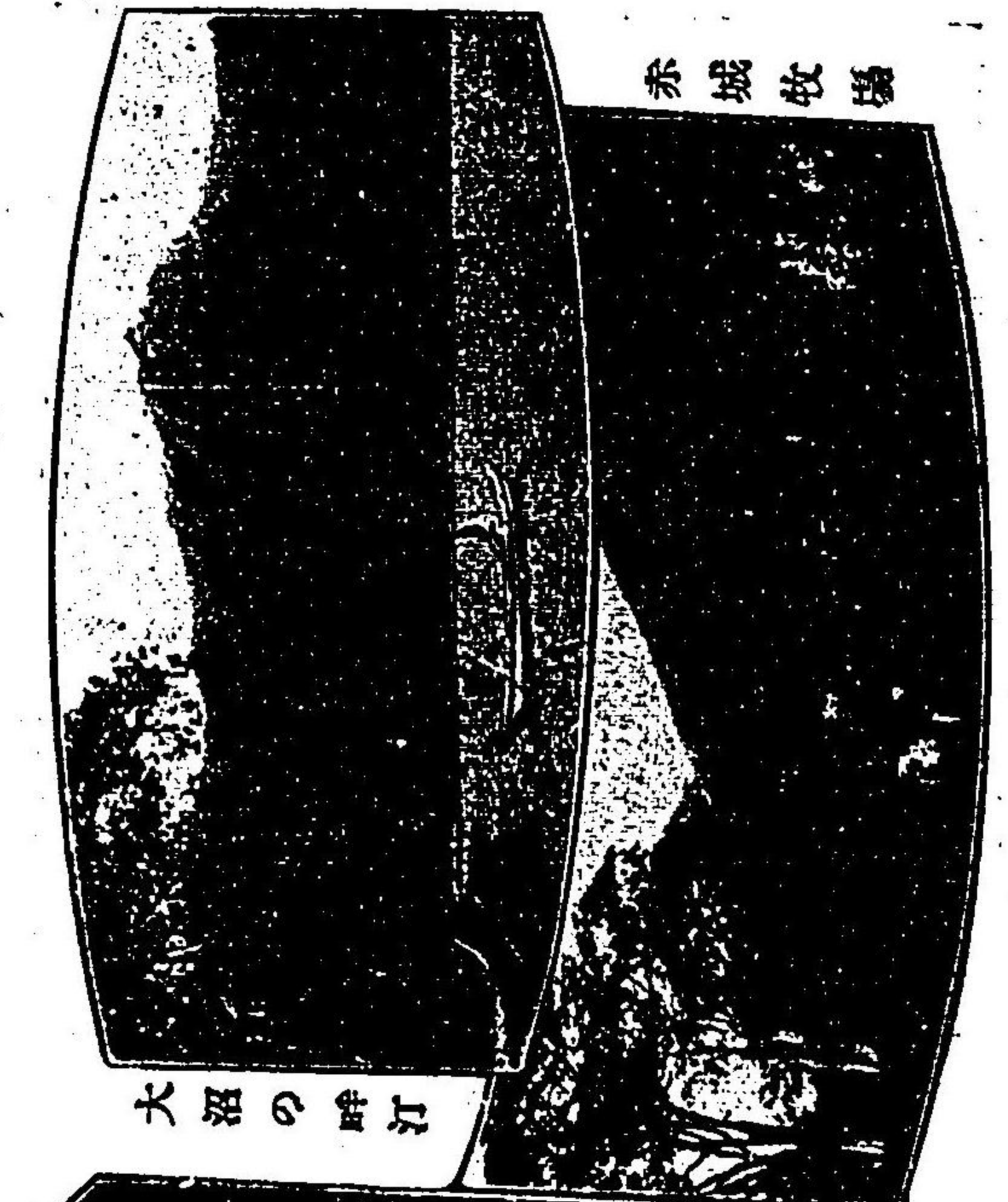




赤城山名勝地



例		凡	
馬車	電車	汽車	瀑布
牧場	寺院	神社	名所
市	町	市	町
温泉	温泉	温泉	温泉
道路	道路	道路	道路



大沼の畔江



湖津戸の碧潭と飛橋

赤城牧場

赤城山案内

(前編)

戸丸 曉 鐘 著

關東平原の西北に峻々として聳立する三嶽を妙義、榛名、赤城となす、所謂上毛三山にして國の中央に鼎立し互に特趣の天景を極め各々秀麗を競ふて古來天下に鳴れり

就中赤城山は雄大なる景趣と堂々たる容姿とを以て現はれ放眸千里遮るもの無く威風凛々たる大壑城に似て遙に榛名、妙義を闕下し三山中に優たり

赤城山は真に雄大を以て人口に膾炙せるものありと雖も亦風光の美、自然の妙、甚だ豊にして山嶽に大壑あり、峡谷に靈泉あり、飛瀑あり、裾野に牧場あり、神苑あり

巨流ありて一山悉く仙區に非るは無く四時の景趣、特趣の天美は筆舌の克く盡す所に非ざるなり、若し夫れ滿山、秋、紅に染つて錦繡綾羅を纏ふに至らんか遠く仰望して美神の靈腕に驚嘆せざるは無し、赤城の名蓋し此の邊に起因するものならんか  
於是乎四季の登山者愈々多きを加ふるも亦昨今赤城湖畔の地、漸く避暑療養に適するを認められ夏季學生乃至貴籍の來到する者尠からずして宛然避暑地の觀を呈し、春の賽者、冬の狩獵者等と相俟つて四季登客の絶ゆる事稀なり  
今茲に眞景を寫し、事實を叙して東道に資せんとするも其の筆や及ばざる事遠く、僅に其の皮層を傳ふるのみ、讀者之れを諒せよ

赤 城 山

赤城山は海拔六千三百尺餘、群馬縣勢多郡の北嶺にして利根郡の陽を蔽ひ其の郡境に峙つ、山頂數峰に分れて其の中間に大壑在り、壑中より望めば北に小黒檜山、東に大黒檜山南に地藏岳、西に鈴ヶ岳聳ゆ、又荒山鍋割山等ありて地藏岳の南西に突出し直に裾野の上方を壓せり、就中大黒檜山は群峰に超絶して赤城山の標高點たり  
裾野は赤城山腹以下、傾斜の弱き平野にして廣漠千里、山を廻りて村落に及ぶ、其の間に田圃あり、森林あり、池沼あり、谿谷ありて山の大部分を占む、赤城山とは之等の總稱なり  
以下主なる所に就てのみ説く可し  
△大黒檜山 赤城山中の最高峯にして海拔六千三百四尺、絶頂の眺望、眞に雄大を極めて十三州の山河、一眸に落つ、立ちて四顧すれば遙に富嶽と筑波の雲間に聳ゆ

るを認め、日光武尊様名妙義秩父の連峰、又指呼の間にありて脚下に帯の如く東する利根渡良瀬の二流を見る、景趣豊ふるに辭無し、湖畔より行程約卅丁、頂に石碑あり、附近は高山植物に富み又石南花五葉松等多し、萬葉集の「久呂保乃福呂」と云へるは即ち之の山にして小黒檜山は其の西に峙ち、黒檜牧場は其の北腹に在り

△地蔵岳 湖畔より行程凡十二町餘、一名神庫山と稱す、往昔大神の神寶を收めし所なりと傳ふ、山頂の展望亦廣濶にして傍に小詞あり、高山植物又妙からず、其の麓に地蔵の湯、牧場等在り

△鈴ヶ岳 大洞より一里、地蔵岳の西方に位し峻巖峨々として攀登の道峻阻を極め鐵鎖に依る所あり、山頂の祠畔に立ちて放眸すれば十三州の山河一眸に蒐り近くは子持、榛名、妙義の諸山、遠くは甲武信越の山岳、沃野を隔て、波瀾の如く起伏す

るを望み、脚下に利根、渡良瀬の二流銀蛇の如く走りて蜿蜒たるを見る、豪壯の景趣筆舌に絶す、附近に岩窟夥しく皆て俠客國定忠次の此所に籠居せる事ありしと、毎年舊祭の前夜に登山して之の岩穴に一夜を明す參賽の者妙からず、稱して穴籠りと言ふ、數年前迄は此處に於て公然たる賭博を開帳する奇習ありしが昨今取締の嚴重なるに連れて積年の弊風一掃さる、満山悉く高山植物に富み石南花、赤城躑躅等に名あり

大沼

赤城山群峰の間に位し石垣沼又は萬葉海とも稱す、古來詩歌に名高く萬葉集の「賀美都氣野」は此の沼を咏みたるものなり

有名なる火口原湖にして周圍一里十三町卅間(面積百六十一町六反二畝廿二歩、廣袤東西十八町四十四間南北十町廿間)にして深碧の水、茫然として萬象を涵し一碧鏡に似たり、湖中の北に一嶼ありて小島ヶ島と名く、上に嚴島神社を祀れり、老木鬱蒼として宛然水中に浮泛せるが如く涼風湖面を掠めて來り酷暑尙ほ汗を覺へず、昨今都人士間に鎮夏の仙郷として稱歎され此處に別荘建設の計畫あり

若し盛夏の季に至らんか積雪路壑を埋め沼水固く結びて良質の水を成す、赤城湖水として世に知らるゝは之れなり

又湖中より山女ユツナ鮎クキを産す、森渺たる湖心に扁舟を浮べて漁網の樂に耽るも興多かるべし、湖水は沼尻より西に落ちて沼尻川となり利根川に注ぐ

大 洞

赤城湖畔に大沼の一帯の地にして赤城神社の鎮座する所なり、海拔五千尺に餘り翠嶺碧潭に圍まれて展望の自由を缺くも山靜に、水眠りて老樹鬱然幽深鬱ふるにも無く恰も太古の境に逍遙するの感あり、若し夫れ湖汀に歩を移して冥想一番せんか邪念掃はれ盡して心神の快、言ふべくも非ず

加ふるに土地高燥、空氣新鮮にして氣候甚だ清冷を極め盛夏尙ほ八十度を超す事稀なり、於是乎昨今絶無の避暑地として又静養地(精神病脚氣病等)として世人に矚目するや甚敷く大暑の候に至らんか遠く來つて鎮夏するもの逐年増加し湖畔の地頗る殷賑を極むるに至れり、一度足尾鐵道の竣成するに至らば其の盛況蓋し想像の外なる可し斯の如き氣候の關係は人身の静養に適する而已ならず又蠶種の貯蔵に好適して其の成績甚だ良好なるものありと、現に赤城旅館及び沼尻青木旅館に於ては其依頼に應じ

つゝ在るが青賀者の好評を博しつゝ在り

湖畔に赤城旅館(猪谷春雄)、青木屋旅館(青木あい)の二旗亭ありて登山者の到るを待つ、何れも客遇懇篤にして共に温泉浴場を設け旅客の入浴に委す、爽快言ふ可くも非ず。滞在費用宿泊料等を示せば次の如し

- 一 滞在費用 壹週間金四圓乃至八圓五十錢前後位
- 一 宿泊料 壹泊金四十錢乃至金八十五錢前後位
- 一 中食料 壹食金十五錢以上又は宿泊料の半額位

### 赤城神社

大沼の畔、大洞に鎮座す、村社にして前橋城主酒井雅樂頭の崇敬厚く其の造營に係

る神威神威及び拜殿今尙存するの外樓門神樂殿等ありて社殿甚だ壯麗を極め輪奐の美宇内に高し、社域廣漠にして(面積五千九百五十八坪)祠畔は老檜森立して畫尙は暗く神代の遺跡餘に人をして敬虔の念に堪へざらしむ

△祭神 盤筒男命、盤筒女命、經津主命、豊城入彦命、大山咋命、徳川家康を奉祀し相殿に卅六柱の大神を合祀す

△由緒 社記に「里老相傳へて大同元年の創立なりと云ふ云々」とあり考證の依る可きもの無きを以て其の年代を詳にし能はずと雖も上古の創建に係るは明かなり、續日本後記に「承和六年六月甲申授三上野國無位赤城神從五位下」とあり三代實錄には「貞觀九年六月二十日丁亥授三上野國從五位赤城神正五位下」。同十一年十二月二十五日戊申授三上野國正五位下赤城神正五位上。同十六年三月十四日癸酉授三上野

國正五位上赤城神從四位下。元慶四年五月二十五日戊寅授上野國從四位下赤城沼神從四位上。」と、而て上野神名帳には正一位赤城大明神とあれば其後神位の進みしものなる可し

鎗倉内大臣の歌に「上野のせこの赤城のから社やまごにいかであとをたれけん」と詠まれしものさへあれば當時既に武家庶人の崇仰厚かりしは想像に難からざるなり降つて天文の頃、劍術諸流の祖と呼ばれし上泉伊勢守秀綱なる者、赤城明神に信仰して妙術を得、又前橋城主笠間明玄及び長尾謙忠平岩親吉等の代々殊に敬仰深く酒井雅樂頭の如き前橋城主たりし時元の東群馬郡紅雲分村（今の前橋紅雲町）の田三反三畝十八歩を寄進し神輿を奉納し續いて松平氏の城主となるや世々崇敬篤くして社殿を修葺し毎年米二十石を寄進して祭資の料に當てられ大祭に際しては城主自ら登

山し以て幣帛を奉り武運長久を祈誓せられたり

斯くの如く世々の領主自ら崇敬管ならざりしかば當國は勿論近國各地の衆庶歸向して夥しく上野國の大鎮守と稱へ前年區劃一定に至る迄は五百二十餘村の氏子を有して靈徳赫灼たりき

△里宮 赤城神社の分社、元と敷社ありて里人は里宮と呼べり、就中前橋紅雲分村（今の紅雲町龍海院の西にして中學校敷地なり）所在の里宮は本社に次で世人の崇仰高かりき之の分社は文明年間時の城主笠間明玄の厩橋城を築くに際し城の末申に方り社殿を建立して大洞より勸請したるものなるが爾後の城主亦崇敬厚く長野、長尾平岩、酒井、松平の諸氏を経て明治の廢藩に及ぶや漸く社殿の頽廢甚しく永久維持の困難を感じて信徒の請願により明治廿年九月七日收て他分社と共に本社に合祀せり

尙ほ其後合併せる社祠は左の如くにして手續中のもの數社あり

明治四拾年九月二十八日許可

△勢多郡富士見村赤城山頂字大洞小沼端無格社豊受神社△大沼ノ内字小島ヶ島無格社鹿島神社△全字黒檜山頂無格社高松神社△全郡全村字箕輪無格社箕輪三柱神社△全郡全村大字小暮村字八幡村社八幡宮(境内末社三社)△全郡全村大字全村字諏訪無格社諏訪神社(境内末社六社)△全郡全村字高平無格社赤城神社(境内末社拾社)△全郡全村大字全村字上田無格社横野神社(境内末社六社)△全郡全村大字全村字受地無格社水神社(境内末社拾社)△全郡全村大字梶谷辻無格社諏訪神社(境内末社二社)△全郡全村大字全村字梶谷辻無格社稻荷神社四社△全郡全村大字皆澤新田字清水社八幡宮(境内末社三社)△全郡全村大字深窪村字窪村社赤城神社(境内末社六社)△全郡北播村大字上南室村字指倉村社赤城神社(境内末社八社)

明治四拾三年九月二日許可

△勢多郡富士見村大字市之木湯村字西平村諏訪神社(境内末社八社)△全郡敷島村大字橋村字寄居村社御前神社(境内末社八社)△全郡△村字十二山無格社阿夫利神社(境内末社四社)△全郡全村大字全村字十二山無格社大山祇神社(境内末社二社)△全郡全村大字全村字中谷戸無格社八坂神社(境内末社一社)△全郡全村大字全村字上川原無格社菅原神社(境内末社壹社)△全郡全村大字全村字畑之内無格社八幡宮(境内末社一社)

明治四拾四年四月三十日許可

△勢多郡富士見村大字石井村字下小原目村社八幡神社(境内末社拾七社)

△祭典 例祭、五月八日。紀念祭、十月一日。(舊祭、四月八日、四月十五日)



登山順路

赤城山は山麓の何れよりするも登路の路敷多くして多くは阪路峻険。崎嶇として羊腸の如く絶壁の如く甚だ困難ならずとせず、茲には駄馬の往復し得らるゝ途をのみ撰びて容易なる順路を各方面に従ひ略説す可し

△前橋方面 登山の正路となす、東京信越地方より來る人は前橋停車場に汽車を捨て、此の途に據る可し、前橋より小暮村迄(三里)腕車を驅れば(賃金六十錢)約貳時間半、駄馬を雇へば(賃金六十錢前後)凡三時間、徒歩にても三時間を要さず、小暮村には郵便局旅舎等あり、小暮より大洞迄は約四里駄馬若しくは徒歩の外無し(駄

馬賃金八九十錢)途中に際限無き赤城興業組合の植林地、赤城牧場、箕輪村、地蔵の湯、等ありて景趣甚だ豊なり、大洞迄約六七時間を要すべし

△大間々方面 小山水戸足利地方よりは汽車にて桐生驛に到り足尾鐵道に乗り換へ神梅停車場に下車すべし、所謂梨木通りにして梨木迄は(一里餘)腕車(二人曳賃金八九十錢)駄馬(賃金四五十錢)にて壹時間前後を要し徒歩にても約壹時間なり、梨木に着きて一泊するか若しくは休憩して山に向へば身は既に赤城山の半腹にあるを知る可し梨木より大洞迄二里半馬背に依るか徒歩の外無し(駄馬賃金七八十錢位)行程容易に非ざるも他方面よりは易く途中に廣野、鵜飼峯、牧場、三途川、小沼等を過ぐる而已ならず展望廣濶にして行程甚だ僅かなれば前橋方面よりも態々迂回し此の途に據るもの多し

△水沼方面 足尾花輪地方よりは梨木通りを撰ぶもの多きも亦此の道筋に依るもの  
妙からず、即ち水沼より足尾鐵道に岐れて赤城山に道を取る、大洞迄凡三里、登攀  
至難にして駄馬(賃金八九十錢)若しくは徒歩に限る可し

△沼田方面 利根郡地方よりは生越村若しくは棚村に出で、所謂赤城の原(裾野)を横断し、蠶のトワタリ等の險阻極まる後道を越ゆ、大洞迄、沼田町より五里、生越  
棚村より各三里(駄馬沼田より賃金一圓四五十錢、生越、棚村より賃金八九十錢前  
後)途中の景趣亦豊なり

△八崎方面 吾妻郡若しくは澁川町地方よりは此の道を選ぶ、澁川より八崎に出で  
馬背又は徒歩にて登山するものとす、途中の景趣豊かにして足の疲れも覺へざるな  
り、八崎より大洞迄の駄馬賃金二圓前後とす、伊香保、榛名山に至るの道筋なり

△三夜澤方面 前橋方面より馬車にて太胡町に出で(賃金十四錢)大胡町より三夜澤  
迄二里、(駄馬賃金五六十錢)湯の深迄三里(駄馬賃金七八十錢)湯の澤より大洞迄二  
里(駄馬賃金六七十錢)なるが途中梨木方面の道筋に合して血の池、小沼等の附近を  
横る可く眺望絶佳にして趣味ある道筋とす

其他、根利村、花輪村、敷島村等山麓各地よりの道筋あるも必要少きを以て省略す  
各地よりの里程 各地より赤城山大洞迄の里程次の如し  
東京より卅五里、前橋より七里、大間々より五里、水沼より三里、宿廻より三里、  
花輪より四里、大胡より五里、三夜澤より三里、湯之澤より二里、瀧澤より二里、  
伊勢崎より八里、桐生より七里、足尾より十二里、沼田より五里、根利より三里、  
追貝より六里餘、澁川より五里、八崎より四里、梨木より二里

詩 歌

赤城山あかぎさんに関する詩歌しにて尤も古きを萬葉集まんやうしゅうの東歌とし次では鎌倉石大臣かまくらいしだいじんの歌、夫木集つまぎ橋遠長の詠等甚だ多し、最近さいじんのものと併あはせて左に二三を掲ぐ

賀美郡氣野久呂保乃爾呂乃久受葉我多可奈師家兒其爾伍夜射可里久母 萬 葉 集  
 上野のせこの赤城のから社、やまこにいかであをたれけん 類 朝  
 萬代に赤城の山の白樺、君かまかゆく卯杖にすきる 橋 遠 長  
 おく山の石垣沼のみこもりこもりに、こむわたらんあふよしななみ 人 丸  
 ひきすつる石垣沼のあやめ草思ひしらぬもけふにあふかな 小 湊  
 おくやまの石垣沼のちまのちまの名は深き懸路かきぢに何みこるらむ 後 成  
 くらぬたゞ石垣沼のあやめ草あやめ草こもりこもりにひく人もなし 經 氏

名 物

いく千世 石垣沼のあやめ草長きためしにけふやひくらん  
 おくやまの石垣沼のいはずさもしれかし人の深きころろを  
 たつのふる石垣沼のあやめ草契てひかん君か爲にさ  
 さても嶺石垣沼のわやめ草わやめしらゆ袖の玉むれ  
 古毛之野緑飢飽 起伏歴然山脈兮  
 苦悶靈泉爰自發 赤城霞色白根雲  
 鼎食何憂五鼎烹 壯圖好向八州成  
 探來他日雄飛處 立馬東寧祝赤城

入道前太政大臣 眞照法師  
 春宮大夫師類 後鳥羽院  
 春 滿  
 雲井龍雄

赤城の名物として數ふ可きものは第一に湖水、高山植物、次ひでは沼の魚、素麴

鳥獸、産類、金ツバ燗等とす

△赤城湖水 嚴冬の候、大沼の結氷を貯蔵し置くものなり、自然凍氷として聲名全國に高く其の右に出づるもの無し、産額五千圓餘

△高山植物 人口に膾炙せるものに赤城躑躅（普通のものと其種類を異にし初夏の候未だ發芽せざるに咲き出で花は薄紅色にして萼片無く恰も枯木に花の咲きしが如し）石南花、肉食植物にムシトリ籠、モウセン苔、珍らしきものにユキワリ草、其他クルマ百合、コガネナゴ、ヤナギラン、クガイソウ、アマナカタクリ、ナ、カマド、イチヤクソウ等及び種々なる蘭科植物甚だ多し

△沼の魚 大沼より産す、ヤマメ、クキ、フナ等ありて甚だ夥し、味亦拾つ可らず

△赤城素麵 沼尻の旗亭青木屋にて鬻ぐ、頗る美味にして評判の名物たり、妙義齋

麥と共に其名山よりも高し

△鳥獸 赤城山到る所の峡谷山野に其の影を見ざる事無し、主なるものを兎、雉子山雞、鳩、懸巢等とし稀には鹿、猿、貂、鼬、鷹等を見る事あり

△産類 椎茸を主とし松茸、其他雜茸數ふ可らず、春秋の候には鹿々茸狩に登山する者甚だ多し

△金ツバ燗 其の由緒を詳にせざるも神社の宮守が自慢の名物なり、味ひ甚だ美にして好箇の土産物たり

後編

赤城山順の景趣より大沼、大洞、神社、登山の順路等は前編に於て既に之れを述べたるが如きも未だ裾野、峡谷に就ては一言せざるもの多きを以て其の概略を叙し登山者の參考に資すべし

小沼及び附近

△小沼 大沼と共に火口原湖にして大洞の東十數町に位す、湖畔の西に地藏岳峙り東北に小地藏ヶ岳長七郎ヶ岳を仰ぐ、周圍卅町卅七間（面積卅六町二反四畝、廣袤東西十二町四十五間南北八町四十八間）にして大沼の如く湖畔の幽邃に富まざるも藍碧深く湛へて山光岳色を倒映し風光畫くに似たり、附近は牧場の放牧地にして湖

濱に牛馬の群をして綠草を食むを見る

△三途川 梨木、大間々及び湯の澤より峻坂を登躋し盡して平地に出でたる所に細流あり、稱して三途川と云ふも其の據る所無きは勿論なり

△賽の河原 三途川附近に小石の点在して沼澤をなす所あり、賽の河原と稱し登山者は小石を積みて其の罪滅を願ふを常とす

△地獄谷 地藏岳の東麓にして地質の關係より地層滑墜し草木の發生する事無く礫石墨々として一見凄愴の氣、人に迫る

牧場

赤城山は廣漠なる裾野と峡谷に富むより頗る牧畜事業に適して經營する者多く一

山悉く牧場の觀あり、黒檜牧場、赤城牧場、荒山牧場、二本檜牧場、鈴ヶ窪牧場、沼ノ窪牧場、檜山牧場等は就中著名なり

△黒檜牧場 黒檜牧場株式會社の經營にして大黒檜山の北麓より中腹に及ぶ、面積六百町歩、水草の利を兼有して牛馬の放牧に適す、毎年優に四百頭を放飼し成績良好なり、大洞より一里餘、其の附近に根利牧場あり

△荒山牧場 荒山の南麓に位す、一百數十年前より宮城村檜原氏の經營する所にして面積九十町歩餘、水草豊富にして牛馬の放飼に好適す、一ヶ年の放牧數馬百頭前後に過ぎざるも成績頗る優良なり

△赤城牧場 赤城山の裾野、箕輪村より大沼小沼荒山鈴ヶ岳を圍み附近一帯の池を劃して放牧場となす、故關口安太郎氏の經營せしものにして面積數千町歩、放牧數

千百前後、成績優良の評ありて前橋より三里餘に過ぎず山中屈指の牧場たり

△二本檜牧場 利根郡生越村林貞次郎氏の經營に係り、大洞の西より廣漠の裾野を占む、面積一百餘町歩水草豊富にして放牧頭數毎年數百頭を數ふ、全開場附近は景勝に富み眺望甚だ佳なり

### 梨 木 鑽 泉

赤城山の南麓に位して海拔一千四百九十尺に餘り、背後に峨々たる赤城山を負ひ前面に深澤川の溪流滾々として南方の眼界展げ地勢甚だ景趣に富む

鑽泉の湧出沿革等に就ては考證の據る可きもの無くして詳ならざるも傳説に依れば田村磨將軍、東征の除次、赤城明神に祈誓して靈顯ありしより大同二年大に社殿の造

營を行ふ、時に杣翁ありて鑛泉湧出の事を告げしかば即ち之れを開くと云ひ、又正徳年中正三位梨木祐之なるもの此處に沿して病痾を醫したるより名聲漸く四近に聞へて地名を梨木と呼ぶに至ると、兎に角爾來年と共に發達して現今に及びしは明かなり

鑛泉の學理的に試験されしは明治十八年にあるも更に定量分析試験の結果證明せられたる成績分析表は次の如し

第拾貳號

一赤城山梨木鑛泉

群馬縣勢多郡黒保根村大字宿廻 一種

一種

右試験の爲め當所へ差出したる水は無色清澄にして極めて微に鹹味を具へ且つ少しく口中を刺戟し其反應弱酸性を呈すれども之を煮沸すれば微に濁濁して「アルカリ」

性に變ず比重は攝氏十五度に於て一、〇〇二二を示し其毎千分中に含有する固形物總量は約二二五〇六分にして各成分の含量は左の如し

クロールナトリウム食鹽	一、〇七七〇	クロールカリウム	〇、一〇六四
クロールカルチウム	〇、三三四一	クロールマクネシウム	〇、〇一四七
炭酸マクネシウム	〇、四七四七	硫酸カルチウム石膏	〇、〇三二二
硫 化 鐵	〇、〇一〇〇	硫化アルミニウム礬土	〇、〇〇三〇
硅 酸	〇、〇九九八	磷 酸	痕 跡
磷 酸	痕 跡	遊離及半結合炭酸	一、〇五二二

以上試験の成績に據れば本泉は食鹽を含める炭酸泉に屬す依て醫治効用の概要を掲ぐれば左の如し

(内用) 胃弱、便秘

(浴用) 慢性粘膜炎、婦人生殖器病、癩癧皮膚癬、麻質斯及吸呼器病

明治四十一年一月二十四日

内務省東京衛生試験所長

衛生試験所技師藥學博士

田原良純

主任 衛生試験所技師

瀬川林次郎

旅館に梨木館(深澤直十郎)清水館(英木園之助)等あるも梨木館を第一とす、客遇甚だ誠實を極め四時浴客の絶間無し、當地は物價低廉にして一週間の滞在費用(座敷料夜具料薪炭油代湯錢)一切普通賄にて金貳圓乃至金參圓前後、一泊金四五十錢に過ぎざるのみならず自欣の勢を客まされば夫れよりも廉價に浴療するを得べし

昨今足尾鐵道の竣工せるより交通の便昔日に倍して浴者雜踏し甚だ殷賑なり、赤城登山者は是非一浴を試みざる可らず(赤城登山順路對照)

當地の名産に鮫ふ可きもの少きも山に兎、山雞、雞子、川にヤマメ、ニワナの鱒あり浴餘の無聊を慰むに足る、其他礦泉を利用して製造せる煎餅あり名けて梨木煎餅と云ふ風味佳良、好箇の土産品たり

附近に久良美の瀧あり、高さ二丈餘、珠簾の風に揺ぐが如く清涼の氣、肌を襲ふ、其他湯本八景、遠くは高津戸、貴船神社等ありて浴餘の散策に妙なり

湯本八景 藥師山郭公(壹町)、湯の平瀑(二町) 塔の澤塔(卅町)、湯元の櫻(數間)、遠摩石(一町)、煙燭岩(廿町)、廣野の秋月(廿町)、正圓寺晚鐘(卅町)

各地への里程 宿廻へ一里、大間々町へ二里餘、大洞へ二里、大胡へ三里半、桐生



四里、花輪へ二里

湯之澤温泉

赤城山の南腹に位し、海拔三千六百五十尺餘、勢多郡宮城村の一廓にして名聲四近に高し、發見の年代沿革に就ては詳ならざるも微温湯にして強度の炭酸泉なり、分析試験に依る含有成分、醫治効能は下の如し

重炭酸加爾基	大量	全	マクネシア	大量	硫酸マグネシア	大量
格魯更ナトリウム	大量		重炭酸亞酸化鐵	少量	硅	酸
炭酸アルカリ	痕跡		遊離炭酸	大量		少量
固形物	(二、〇〇〇中、一、六八一)以上					

浴効 慢性腺病性硬結腫、全リョウマチス、全頑固潰瘍、打撲、皮膚病等  
服効 慢性腸加答兒、下腹充血、慢性肝臓充血、全氣管支加答兒、全淋病、神經性頭痛、痲痛、脚氣、婦人帶下、月經痛、便秘、喉頭カタル等

旅館に元東屋(前原熊太郎)、新島屋(北爪源平)、新東屋(前原忠太郎)の三戸を算へ何れも容舍清麗にして客遇懇切を極む、滞在費用は節約の如何に關係するも座敷料食料薪炭湯錢等一切にて普通一日金卅錢乃至金六七十錢宿泊料一泊金四十錢前後に過ぎずして甚だ低廉なり

當温泉は土地高燥にして空氣清涼を極め盛夏尙は蚊帳を用ひず殆ど夏知らずの鎮夏郷たるのみならず附近は山紫水明の景趣、豊にして浴療と共に静養の好適地たり

其の順路は赤城登山の項中に説きたる如く東南方よりの道筋に當るを以て當泉に一

浴を試み序に附近の名勝を探るも興多かる可し

当地の名産、名所、各地への里程を示せば下の如くなり

名所 瀧澤不動院、全瀑布、全鑛泉、三夜澤赤城神社、太子岩、赤城牧場、大沼、

小沼、大洞赤城神社等

名産 鳥獸、川魚、茸類等

各地への里程 瀧澤へ十町、三夜澤へ一里、大洞へ二里、梨木へ一里半、大胡へ三里、前橋へ五里半、大間々へ四里半、

### 瀧澤鑛泉

赤城の南麓、勢多郡柏川村に在り、湯の澤温泉より十町餘、塩類泉に屬し温度は華

氏六十五度にして慢性胃加答兒、肝臓病、月經不順、子宮加答兒、リョウマチス、皮膚病、胃病、便秘等に浴効妙からず、湯元を北爪と稱し設備等に較よ可きもの無きも待遇懇篤にして浴客常に絶へず、滞在費用は一週間二三圓前後、宿泊料一泊金四十錢位なり

附近に瀧澤不動院、全瀑布等在りて風光絶佳を極め翠綠滴るが如し、觀瀑の途次若くは赤城登山の序に一遊を試みざる可らず

### 瀧澤不動院

瀧澤鑛泉より登る事數町、老杉鬱蒼として畫向は暗き所、岩窟の内に一堂宇あり、即ち瀧澤不動院にして本尊を銅造の不動明王となす、應永十一年甲申七月一日上野國

邑樂郡佐貫庄可又太郎藤原道廣の鑄作する所にして道廣は俵藤太秀郷の末孫なりと傳ふ、本堂は間口五間半奥行二間半、別に御籠堂あり、間口五間奥行二間にして明治八年の再建に係る、靈顯赫灼として平日、尙は賽者の影絶ゆる事無し、境域千九百十七坪、甚だ幽邃なるを以て特に精神病者の静養に適し其名高し

有名なる瀧澤瀑布は堂背敷丁の所にして附近に胎内くわいり、人穴、大通龍、全瀑布等の奇勝及び御籠堂、茶亭等在りて一日の清遊に適せり  
各地への里程 瀧の澤へ十町、大洞へ二里、三花澤へ一里、大洞へ三里、前橋へ五里余、大岡々へ四里、梨木へ一里半、伊勢崎へ五里餘、粕川村役場へ二里半

瀧澤瀑布

瀧澤の瀧、或は單に不動の瀧とも稱す、瀑身實に十六丈三尺、巾二間に餘り、巖壁

を直下する水聲聲響として山谷を震ひ凄絶壯觀を極む、餘沫の遠く飛んで衣袂を潤はす邊に佇立すれば三伏の候尙は肌を粟を生じて清涼骨に透る、縣下の名瀑にして鑑々曳杖する者甚だ多し

水は赤城山嶺の小沼より發し谿谷の流れを合せて瀑布となり落ちて粕川となる、赤城山中第一の偉觀なり

詭子の伽藍

小沼の水流れて瀧澤の瀑布に至るの間、四圍の岩崖峙ちて空洞に似たる所あり、稱して詭子の伽藍と云ふ、伽藍の形状宛然詭子の如くにして鬼斧の妙、轉た驚嘆の外無し、然れども行途峻險にして獵夫の徒に非ざれば行く能はず、遊士の恨事なり

尙ほ附近に大小四十八所の瀑布あるも地勢前述の如くにして曳杖すべくもあらず、若し強て至らんと欲せば相當の設備と案内者を雇ひて萬一の危難に備ふべし

地蔵の湯

地獄谷鑛泉とも云ひ樺の湯とも稱す、赤城山地蔵岳の南麓に位し海拔四千尺餘、地は勢多郡富士見村の一部なり、風光明媚にして南面の展望、遮るもの無く脚下に利根の清流を瞰視し、遙に富岳と秩父の連峰を望む、真に一幅の活畫たり  
泉質は硫黄泉に屬し皮膚病、痲氣、寸白、脚氣等に浴効ありて浴客の四近より登るもの抄からず、湯元は樺澤と稱し親切を極め宿泊料一泊金五十錢前後、滞在費用一週間一切金二三圓位にして諸事甚だ勉むる所あり

赤城登山の正路に當り前橋より六里、大洞へ一里弱に過ぎず、附近に赤城牧場、湯の澤温泉あり

△硫黄精練所 地蔵の湯の下方敷丁に在り、地獄谷より硫黄鑛を採取し運搬し來りて精練するものなるが昨夏洪水の災厄に罹りて精練所を埋没し去る、作今復舊の計畫ありと云へば近く開始を見るに至らんか亦附近の曳杖地たり  
△鑛種貯藏所 地蔵の湯元樺澤角藏氏の經營に係り湯元の下敷歩に位す、前述の如き地勢の關係は氣候清涼にして鑛種の生理上、風穴貯藏に優り常に好成绩を擧げつゝ在り、貯藏庫の設備は氏が多年の實驗と學理を應用したるものにして縣當局者及び貯藏依頼者の高評を博し居れり、一ヶ年の貯藏鑛種數二萬五六千枚にして年々依頼者を増加し縣下鑛種貯藏所中第一位の成績にあり

縣社赤城神社

勢多郡宮城村大字三夜澤村に在り、延喜式内の古社にして上野十二社の一なり、  
請の年月不詳なるも往古は大洞を本宮とし當社を里宮と稱せり、祭神は大貴巳命、  
城入彦命にして毎年の例祭には四近の賽者勢からず  
社域は老杉古松鬱然として畫尙は暗く神殿神寂びて自ら崇嚴なり、社寶に嵯峨天皇  
御宸筆の勅額ありて其名高し  
各地への里程 前橋へ四里、大洞へ貳里、大洞々へ五里、湯之澤へ一里、湯澤へ一里、大洞へ三里、伊勢崎  
へ五里、

其他の遊覽地

赤城山麓及び附近に於ける主なる所のみを録して吟杖を曳く者の參考に供すれば下の

如くなり(略圖参照)

- △木曾三社神社 勢多郡北橋村にあり、縣社にして社域幽翠也、大洞より四里餘
- △産泰神社 全 荒砥村に在り、安産守護神として名高し、大洞より六里
- △二ノ宮赤城神社 全 大洞より約七里
- △青柳山龍變寺 全 南橋村に在り、聖德太子を以て現はる 大洞より凡六里
- △八崎の梁漁 全 北橋村の利根川に架す鮎に有名なり、前橋より二里餘
- △棚下不動の瀧 全 敷島村に在り、縣下名瀑の一たり、大洞より凡四里
- △伊香保温泉 群馬郡に在り、妙義、榛名山に至るの途次にして温泉に名あり
- △榛名山 縣社榛名神社の鎮座する所にして妙義山に至るの途次也、赤城  
より十一里餘、妙義へ九里

明治四十四年八月十五日一版發行  
明治四十五年六月三十日印刷  
明治四十五年七月廿日發行

定價金八錢

版權  
所有  
不許復製

編輯人 戶九國三郎

發行人 蘆原才助

印刷人 小谷野善八

印刷所 前橋印刷所

發行所 赤城神社事務所

群馬縣前橋市豐町百十六番地  
群馬縣多那南橋村大字田口村二十一番地  
群馬縣前橋市北曲輪町五十番地  
群馬縣前橋市北曲輪町四十一番地  
群馬縣多那富士見村大字赤城山大洞

明治四十四年八月十五日一版發行  
明治四十五年六月三十日印刷  
明治四十五年七月廿日發行

定價金八錢

版  
權  
不  
許  
復  
製  
所  
有

發行所 赤城神社々務所

編輯人 戸丸國三郎  
群馬縣前橋市堅町百十六番地  
發行人 塩原才助  
群馬縣多郡南橋村大字田口村二十一番地  
印刷人 小谷野善八  
群馬縣前橋市北曲輪町五十番地  
印刷所 前橋印刷所  
群馬縣前橋市北曲輪町四十一番地  
群馬縣勢多郡富士見村大字赤城山大洞

赤城山麓富士見村

鹽種業 桑島定助

最と小き權屋に候へ共登山の路  
すがら露葉家の御來訪待ち上候

春蠶種 亦昔  
風穴種 長白龍

蠶種製造者

須川五作

上毛勢多郡南橋村大字田口

優良蠶種

一化性

蠶種製造者

亦昔

鹽原總平

上毛勢多郡南橋村大字田口

蠶種

伊達錦

亦昔

蠶種製造者

加々美助次郎

勢多郡南橋村大字龍藏寺

御料理  
仕出

(松林亭)

松屋

上毛大間々町

春蠶種 亦昔 伊達錦  
秋蠶種 寶來玉 白

伊達錦 亦昔 寶來玉 白

群馬縣勢多郡南橋村日輪寺十三番地

蠶種製造者

田子芳太郎



春蠶種 亦昔 青熟  
風穴種 白龍

群馬縣勢多郡富士見村大字石井一發地

蠶種製造者 樺澤友松

(群馬縣金口區東京丸八七七番)

風光佳絕  
避暑療養  
之好適地

上毛新田郡西長岡鎮泉

湯元長生館

小川喜太郎

(群馬縣新田町)

亦昔  
伊達錦

蠶種製造者

天野川太郎

群馬縣勢多郡橋本村  
大字日輪寺

風穴秋蠶之大王

住化二

種夕島

群馬縣勢多郡橋本村  
改荒村橋本郡多勢

蠶種製造者

養田鷺平

風穴秋蠶  
千代鶴  
白龍

桑野國露桑露良改苗桑  
(者造製種蠶)

群馬縣勢多郡芳賀村大字嶺

青木賢孝

群馬縣勢多郡富士見村大字原之郷

古屋清太郎

群馬縣勢多郡芳賀村大字嶺

第一飼育場所 池田英太郎

群馬縣勢多郡南相模村大字日輪寺

第二飼育場所 萩原真十郎

山梨水明  
に名高く  
織身の精  
能基だし

上毛 藪塚 鑛泉

湯元 今井喜三郎

○御一報次第案内記進呈仕候

和洋小間物  
ニハガキ類  
教育玩具商

赤城山名物 梨木煎餅 和洋砂糖餡餡菓子原料  
洋風菓子掛物製造問屋

上毛大間々町三丁目(家鏡山田屋)

實用新菓泰平の御代 石原直三郎  
大日本禁酒同盟會修身會員

翁胎。君が代觀造本舖

269  
446

大坂屋  
中澤市郎次  
電話八番

上州草津温泉

弊館は百有餘の客室と數戸の別館及び別荘とを有して誠實を旨とし手堅く營業致し居り候間御來浴の際は御役宿有之度御不案内の方へは御一報次第詳細なる案内記御贈呈可申候 敬白

草津名産

湯の花

大販賣所

優風 良穴 春秋 蠶蠶 種種 並製 製造

群馬縣勢多郡南橋村大字關根村

亦昔、伊達錦	亦昔、朝餅、伊達錦	亦昔、角又	亦昔、伊達錦	亦昔
員合	組業	同種	蠶川	刀
	(順は	るい名氏)		
足立近治郎	天海昇平	萩原長四郎	萩原要	早田藤太夫

(此等蠶種は本館風穴に貯蔵するものにして好評多くなり)

269  
446

大坂屋  
中澤市郎次  
電話八番

上州草津温泉

弊館は百有餘の客室と敷戸の別館及び別荘とを有して誠實を旨とし手堅く營業致し居り候間御來浴の際は御役宿有之度御不案内の方へは御一報次第詳細なる案内記御贈呈可申候 敬白

草津名産

湯の花

大販賣所

上毛赤城山湯之澤温泉

當温泉旅館業者一同は諸物價等申合せの上精々勉強仕り候而已ならず懇切に御待遇申上候間御浴療の思召も候はゞ是非御枉駕有之度又赤城登山の節は序に御立寄り下され候上温泉の効能御試し願ひ上げ候。詳細は當案内書中の本文に就て御承知相成度く候敬白

湯の澤温泉取捨所

温泉旅館

(順不第次)

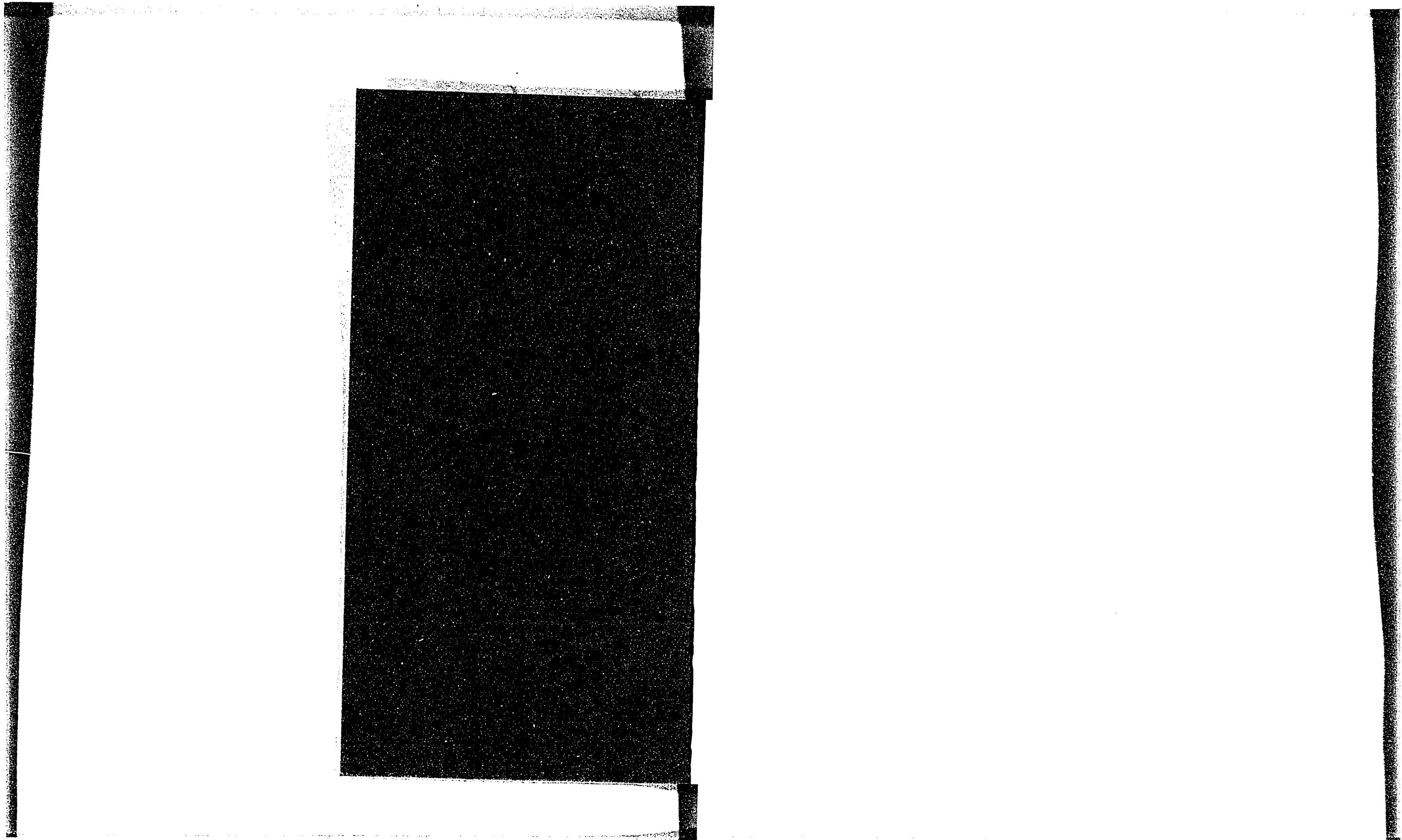
元新新

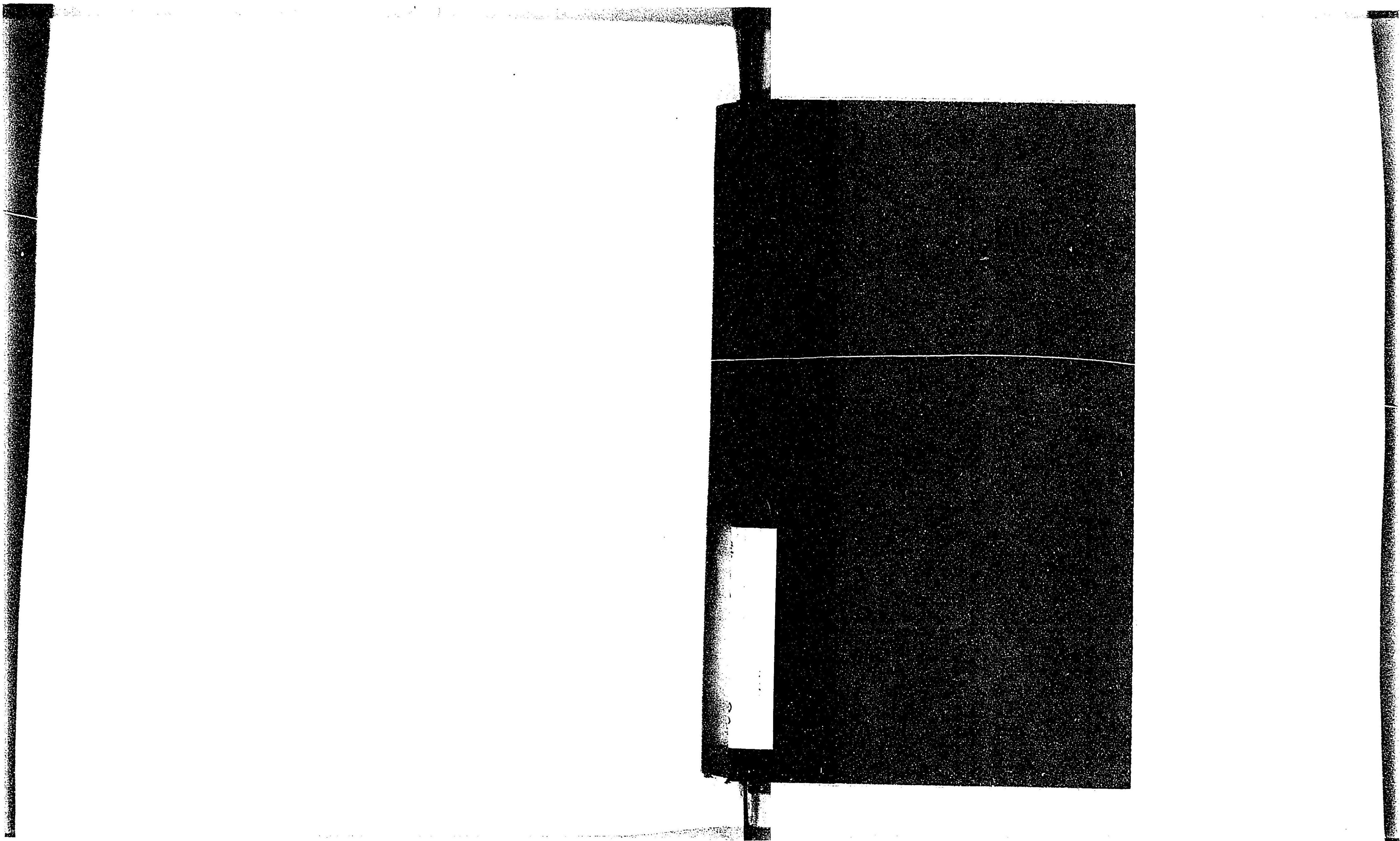
東屋  
前原熊太郎

島屋  
北爪源平

東屋  
前原忠太郎

○御一報次第案内記進呈仕り候





特51

80

赤城山案内

国立国会図書館

023621-000-1

特51-80

赤城山案内

戸丸 国三郎(暁鐘) / 著

M45

ADC-0601

